

# BIOLOGY DATE

1965年6月

昭和40年10.1

第一号



鹿児島高等学校  
生物同好会

## (序)

日本で現在記ろくされている蝶類が 200種余り そのうち 25種が鹿児島県内で記ろくされている。他県にくらべて種類数も多く 鹿児島県独自の蝶が多かったせいからであろうが 中央都市について 研究も進み 二十数年の同好会などの活躍はめざましいものであった。しかしそれ以前の数名の外人蝶類研究家をはじめ、今は無き多くの学者採集家が研究の土台を築いてくださったことは、忘れる事の出来ない事実である。我々はこのようなめぐまれた地において研究できることは、何時間も交通を利用して採集に行く都念の人々にくらべてはるかに幸福である。現在は蝶類の生活史 分布など ほとんど あるところまで達したと云われている。しかしそれは、あくまでも うわべだけのことで、研究という研究は、今から本当に はじまろうとしているのでは ないだろうか。

我々は、背後に 10~20分で行ける 良い採集地がある。いつでも行けるのである。いつ行っても多くの研究は、余りにたくさんある。その多くのことを一つ一つ生活史が判明したと、同じように 努力して前進せねばならない。放課後、土曜日、日曜日あるいは、長期間の夏休みなどは 絶対の研究時間が与えられている。高校生であるから大学の研究室でやるようなことは、できなくても 少しずつたがいに、協力あって 身を持って体験して いくらかでも大学の研究室で やっていくことに 近ずきたいのである。その研究したことを発表する機関が「BIOLOGY DATA」である。我々は新鮮な記録をどしどし発表する「BIOLOGY DATA」オー号は 若松と徳永が二人で編集したが 非常に多くの困難があったし 記ろくも まだ足りない。このようなことでは、会誌どころが 同好会まで 生死の境を歩かねばならない。今こそ ファイトに燃えた多くの会員が 入会して いただくことを 心からねがっている。はじめに二人で編集した関係上、少ないページのものになったが、我々は、すべての記ろくを だしめい 最善をつくして編集した。今後多くの会員が 集まっていたら、まだ 部属い 内容の充実した 立派な 会誌に 成長していくであろう。未熟で 御批判いただく 恐も 多いと思うが、どんな小さなことでも 気がかいたら、おしえて下されば、編集者として、非常に幸いです。

ここに「BIOLOGY DATA」オー号として 1965年 3月~4月の記録と少数の 1962~1963年の記ろくを 発表する

文末ではあるが、竹村芳夫、福田晴夫、山下秋厚、田中洋、成見和純、田中章各先生方には、いつも懇切なる御指導をいただいたし、又若松は 甲南中学生物クラブで、二年間御指導下さった 浦辺丈夫先生、なお 徳永は 永飯実先生、それに、鹿児島県昆虫同好会の 皆様が 暖かく見守って下さらなかつたならば、この会誌を発行するには、およばなかつたであろうと思います。紙上では ありますが、心より感謝の意を表して 繕なとします。

(昭和40年 初夏 若松茂正 徳永誠治)

# 採集器具及の標本作製器具

鹿児島高等学校生物同好会

昆虫は 採集しただけでは 何にもならない。標本を作製しなければ何の価値もない。以下の器具は 我々が 使用して良いと云える品物を買った。なお詳しくは同好会会合で説明する。

## 採集器具

### ◦ 捕虫網

金具	ポケット式新型	直径 36cm
	四折組立式	36cm
	二折組立式	36cm
	スプリング式	30cm
網	本絹上製	36cm
	全上	30cm

### ◦ 網

竹三本	フタぎ	全長 270cm
竹四本	フタぎ	全長 440cm
竹五本	フタぎ	全長 440cm

### ◦ 三角ケース

金属製	三角型	特大型
"	"	大型
"	"	殺虫管装盤付
	四角型	(四角管)

### ◦ 三角紙

パルピオン紙製 3種 大 中 小

### ◦ 毒壺

直径 9×12

### ◦ 殺虫管

特大型 4.5<sup>cm</sup> × 13.15cm

### ◦ 大 型

3cm × 13cm

### ◦ 小 昆虫採集用

吸水管 二重式

### ◦ 採集バンド

総牛皮製 殺虫管大型 10本入り

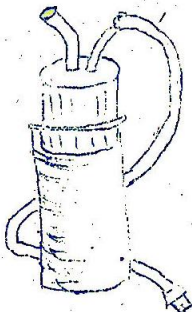
### ◦ 昆虫採集箱

総桐製 片面コルク 片面三角紙入り  
25cm × 16cm × 9.5cm

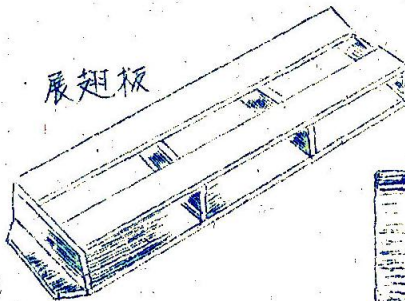
# 標本作製器具

- 展翅板 長 36cm 1種 1, 2, 3, 4, 5, 6号 特大号
- 展足板 長 36cm 上面コルク張り
- 展足板 三種大中小
- 混虫針 ステンレス無頭 40mm 0, 1, 2, 3, 4, 5号 各100本入り
- 舶来混虫針 有頭 " 0, 1号 各100本入り
- 虫針 シンチン製 30mm
- 展翅用玉針 100本入り 40本入り
- 微針 無頭 ステンレス製 250本入り
- ダブル針 親子針 ステンレス製 50本入り
- 微針専用コルク台 50個入り
- 小昆虫貼付用セルロイド板 60cm x 17.5cm 10枚入り
- " 三角型 50本入り
- " クラカント糊
- 平均台 大型 小型
- ピンセット ステンレス製 外科用 13cm
- 独乙型標本箱 50 x 41.8 x 6 cm
- インロー硝子蓋式標本箱 特大型 40 x 36 x 6cm
- " 大型 26 x 27 x 6cm
- ポケット箱 大 14 x 10 x 6cm
- " 小 13 x 9 x 5.5cm

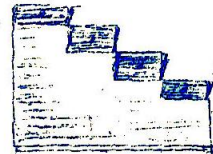
ラベル (昆虫名箋) 各自適当な大きさに切って使用した (画用紙より硬めの紙)



小昆虫採集用吸虫管 = 真空式



展翅板



平均台大



ダブル針

# 春の千ヨウの記録

\*特別に付記したもの以外は 採集者 標本保存者 両者は 若松天正である。

三月 11 日 1965

鹿市 池之上町

ムラサキシジミ 1♂  
 ルリシジミ 1頭 目撃  
 サツマシジミ 1♂ 目撃(取水)

石の上に いくらか水が たまって  
 いた その水を吸っていた。

オソマゴキブリ 1頭 \*死体

13 日 1965

鹿市 武岡

アカタテハ 1♂  
 ムラサキツバメシジミ 1♂  
 ムラサキシジミ 1♂

14 日 1965

鹿市 武岡

アカタテハ 1♀  
 ムラサキツバメシジミ 1♂  
 ムラサキシジミ 1♀  
 ルリシジミ 9♂♂  
 モンシロキョウ 3♂♂ 1♀

17 日 1965

鹿市 武岡

ルリシジミ 2♂♂  
 モンシロキョウ \*  
 ツマグロキョウ +

18 日 1965

鹿市 武岡

ルリシジミ 5♂♂  
 モンシロキョウ 2♂♂ 1♀  
 ムラサキシジミ 1♀  
 ムラサキツバメシジミ 1♂♀  
 キタテハ \*  
 アゲハキョウ 2頭 目撃

25 III 1965

鹿市 武岡

アゲハキョウ	1♂
ムラサキツバメレジミ	2♂♂
ムラサキレジミ	5♂♂1♀
キタテハ	1♀

27 III 1965

鹿市 武岡

ルリシジミ	1♂♀
ヤニレシジミ	1♀ 目けき
アカタテハ	1頭 目けき
ツマグロキキョウ	2頭

鹿市 上荒田町

ウラギンシジミ	1♀ 目けき
---------	--------

28 III 1965

鹿市 上荒田町

ウラギンシジミ	1♀
---------	----

越冬個体で完全度 2~3で 採印を数みて7個産  
ませた。しかし フジの若葉が 付近になく 幼虫  
に 印字化した が 飼育することが できなく残念

30 III 1965

鹿市 武岡

アゲハキョウ	1頭
キタテハ	1♂♀
ヤニレシジミ	1♀
ルリシジミ	1♂

四月

6 IV 1965

鹿市 田上町 唐湊墓地

ヤニレシジミ	2♂♂2♀♀
ルリシジミ	1♀
アサトシジミ	1♂
ツバメレジミ	1♀

11 IV 1965

鹿市 武岡

アゲハキョウ	1♀
コジマノ	1♂
キタテハ	1♂

ムラサキシジミ 1 早  
ルリシジミ 2 古古

ノモンシロキョウ ⊗ 成見孝徳さんと一緒に百余頭ネット  
したが一匹もソノマキキョウは採集できなかった  
今年は一匹も採集できないが、どうい理由か

コムスジ 1 頭 coll. poss. 成見孝徳  
ルリシジミ 2 古古 全上  
アケハキョウ 1 古  
キタテハ 1 頭

鹿市 武岡

ベニシジミ 1 早 coll. poss. 徳永誠治  
サツマシジミ 1 古  
ルリシジミ 1 早  
ズングロシロキョウ 1 古  
モンキキョウ 1 早 (白色型)  
モンシロキョウ 1 早  
ヒメアカタテハ 1 頭 異大小型

19 IV 1965

播磨郡 岡少町 池田湖畔

ヤマトシジミ 4 古古 3 早  
ウラナシジミ 1 早  
ヒメウラナシジミ 1 古  
キキョウ 1 頭  
ベニシジミ \*

ハルゼミの初鳴き記録

池田湖畔へ生息までの間でアケハシミのような  
声を数多く聞き 福田晴夫先生にお知らせした  
ところ、ハルゼミであろうという、今年初鳴き  
がなされているそうです。

御教示下さった先生に感謝します。

ヤンマ類

\*

19 IV 1965

播磨郡 岡寺町 池田湖畔

ゴミスジ 1頭 coll poss 徳永

アゲハチョウ 1♂ 他多く目付き

coll poss 目付き者 徳永

20 IV 1965

鹿市 武岡

クロアゲハ 1♂

コナヤバネヒゼリ 1♀

ハラガキワバメシジミ マテバシト若ば より幼虫の弱と  
卵数個をヒコた

5月9~12の間蛹化した

25 IV 1965

鹿市 吉野町 竜木駅 → 上之原 → 雀ヶ宮 → 川口

カラスアゲハ 1♂ coll poss 若松茂正

ジャコアゲハ 1♂ " " "

キアゲハ 1♂ " " "

ガツマシジミ 1♂♀ " " "

" 1♂ " " 成見孝信

マクシマレリシジミ 1♀ (0)

「マクシマレリシジミの春の記録」 9ページ 短報参照

マコトシジミ 数頭 coll poss 成見孝信

フロヒゼリ 1♂ " " "

スジクロキョウ 1♂ " " 若松茂正

キキョウ 1♀ " " "

*A. nigrofasciatus* Oguma の羽化前のマコトシジミ

採取 「*A. nigrofasciatus* Oguma の新産地」 P11 短報

25 IV 1965

鹿市 城山

スジクロシロキョウ 1♂ coll poss 徳永誠治

ガツマシジミ 2♂ " " "

アイヌシアゲハ \*

キアゲハ 1♂ " " "

モンキアゲハ 1♂ " " "

ミヤマカラスアゲハ ♀ (カラスアゲハ?) 未定

アカタテハ 1頭 " " "



26 IV 1956

鹿市 武岡

ツマプロヒヨウモン  
クロヒカゲ

1♀  
1♀

28 IV 1956

鹿市 薬師町 鹿沼高等学校

ウキスズメ

1頭 coll pss 徳永誠治

29 IV 1956

鹿市 武岡

アオスジアゲハ

2♂♂ 1♀

スジグロシロキリ

1♀

クロヒカゲ

1♂

鹿市 上荒田町

チカサキアゲハ

1♂

蝶類種別採集及び目撃頭数目撃目録

(春のキョウの記録より)

頭数の表わし方は 正…五頭 正…四頭 下…三頭 下…二頭 一…一頭

蝶類種別	目撃頭数			採集頭数			蝶類種別	目撃頭数			採集頭数				
	♂	♀	不詳	♂	♀	不詳		♂	♀	不詳	♂	♀	不詳		
セセリ蝶科							シジミ蝶科								
コヤバキセセリ				—	1		ハラカキレジミ				正	下	6		
クロセセリ				—	1		ベニレジミ	—	##		下	正	6		
アゲハ蝶科							ウラナミシジミ		++		—		1		
ジアコウアゲハ				—	1		ママトレジミ				正	下	正	13	
アオスジアゲハ		##		下	—	3	ルリレジミ	—	1		正	正	正	29	
キアゲハ				下		2	マズマルリシジミ						—	1	
アゲハキョウ		##		下	—	5	サツマレジミ	—		1	正	—	6		
クロアゲハ		++		—		1	ツバメレジミ						—	1	
チカサキアゲハ		##		—		1	タテハ蝶科								
モンキアゲハ		##		—		1	ツマプロヒヨウモン						—	1	
カラスアゲハ				—	1	2	コミスジ							下	2
シロ蝶科							キタテハ		##		下	下	—	5	
キキョウ		++		—	—	2	ヒメアカタテハ							—	1
ツマプロキキョウ		++				下	2	ジメメ蝶科							
モンキキョウ				—	1		ヒメウラナミレジミ						—		1
モンロキョウ		##		正	下	8	クロヒカゲ						—	—	2
スラプロキョウ				下	—	4	コジヤメ						—		1
シジミ蝶科							タテハ蝶科								
ハラカキレジミ						下	正	6	チカサキアゲハ	—	1	—	—	—	3

春のチョウの記録を思うままに一言

- 今年、異状の天候で蝶の発生がどの種類においても、大部遅れている。そして発生数が今年はずかしくなっていた。どんな理由から発生期が個体数に変化があったのか、疑問である。春には絶対といっていいほど欠かさないツマキチョウが今年は一つも訪るくをきかない。
- 種類別にのべてみると、去年一去年多かったムラサキレジミ、ムラサキツバメレジミが少なかったように思う。なおマテバレイ休眠芽の卵が去年よりも少なく思われた。
- 1963年に採集されたマクシマレジミが1965年に2年ぶりに同地、豊後水取イノキ根根で採集された。
- タテハチョウ類が越冬する内でキタテハは、意外多く、ヒメアカタテハ、アカタテハが少なかった。なおルリタテハは、1頭も目撃していない。
- ジャノメ科のフジノメとヒメジャノメでは、コジャノメの発生が早く、4月中には、ヒメジャノメは目撃していない。

*Erynnis montanus* BREMER ミヤマセセリの新産地

若松 茂正

1965年4月4日 一昨年 *Pannophya pygmaea rambur* ハッ

チョウトンボを求め1名2♀♀採集して去年は調査不足のため採集できなかったが以前から成虫総発生よりハッチョウトンボのヤゴがいるはずだからとてくるようにと云はれていたので、同一一昨年採集された所を中心、田んぼの溝のあるところやその付近の水たまりをサレてあさって、ちよっと藪をあげると目の前の枯木の所に何か黒っぽい個体がとんでいてヤゴで止ったよく見てみると新鮮なミヤマセセリであった。はじめて見たのと、意外な場所にちよつき、ヤゴをヒリに焼かぬへ走った、同共を持ち引き帰したところミヤマセセリらしきものは姿をみせないので姿形を見ることはできなかった。

天気次第で温暖 云月もこの場所へ来てみればと悔まれた。

この日、兄が転勤のため加谷木へ引越した。二歳とこれなのではないかと思うとハッチョウトンボ *Septelina unicolor* Bremer & Gray ゴンイチモンジセセリ *Puffbands fusca shujina* *Fusistator* クロレジミ それにミヤマセセリを加えた当地は、実に去り難い。どれも新産地として紙上で発表したものばかりであった。永遠にこのまま自然にまかせよう。あるいは成虫発生が研究され次第希少な切りにすされるかもしれない。しかしおしい。

この日採集したヤゴは郵送して成虫先生に見てもらってハッチョウトンボのものがあったら又の機会に発表したい(場所、加谷木 豊野町 二歳部誌)

*Celastrina puspa* HORSFIELD マクシマルリンジの春の記録

若松 茂正

1965年4月25日 鹿児島市竜ヶ水〜と之原〜竜ヶ宮〜嶽のコースで採集に行ったが 春のマクシマルリンジの記録は 少ないと、かねがね耳にあって 同日も本種が目的では なかったが 竜ヶ水のイヌノギセ 目を還しているうちに、イヌノギセの根元の所からとびだしたリンジを採集したところ マクシマルリンジ 早であった。

1963年 3月13日 竜ヶ原栄蔵君が 竜ヶ水で採集しているのを 鹿児島市付近の 薩摩半島での、二番目の採集記録である。なお 標本は、筆者が保存している

○ 引用文献 「マクシマルリンジの春の記録」(1964) 田中洋 竜ヶ原栄蔵

SATSUMA 38号 P184.

徳永 誠治君の標本を見て

若松 茂正

「BIOLOGY DATA」編集のため 徳永君の記録採めに行き 標本を見せてもらったが、数々の特記すべき記録があったので 経緯を彼に書いてもらった。以下が それである。なお 心よく標本を見てくださり、記録を公表してくださった、徳永誠治君に感謝します。

○ *Rapsaris macilentus* fasson オナガアゲハを吉野町で採集

徳永 誠治

1963年9月中旬 鹿児島市 吉の町 吉野中学校付近で オナガアゲハらしきものを採集して筆者が保存している よく見ると尾状突起が 非常に長く ジャコウアゲハに見られる腹部の赤い しま模様がなく オナガアゲハの舌にみられる 後翅前縁の白糸のないことから オナガアゲハの早であると思う。鹿児島市近郊では 近年記録が なかったと思うので ここに発表します。

○ *Leptalisia renicular* Bruner & Gray ギンイチモンジセサリの大口での記録

徳永 誠治

1962年5月3日 大口市にてギンイチモンジセサリの終型を採集して筆者が保存している。

○ *Graphium down* C. & R. Felder ミカドアゲハの春と夏の記録

1963年5月5日 鹿児島市城山頂上付近のオガタマの木 5頭春型採集 Coll Poss 徳永誠治

1963年7月14日 鹿児島市城山旧道登山口付近の白い花 1頭夏型完全採集 Coll Poss 徳永誠治

○ *Sarcinodes debitoria* omiyaku MARUMO ハスオヒトカ)シヤクを城山で採集

徳永 誠治

1963年7月下旬の夜、城山遊楽園、同観察空台の蛍光灯に飛来したハスオヒトカ)シヤクを2頭採集した。標本は、米飯実先生に御同定いただき深く感謝します。

⊗本種は 九州では 福岡県久留米および 熊本県玉名郡 坂下と屋久島で 産するが まれな種である。

*A. nigrofasciatus* Oguma. 新産地

若松茂正

5ページの春の記ろくの中にも「前記しておいたが」一語に採集に行かれた、成見孝信さんの兄さんに当る 成見和徳先生にも標本を贈呈していただきましたので *A. nigrofasciatus* Oguma クロスジゲンヤンマル新産地として発表する

1965年4月25日 場所は、いそロープウェイの麓の側から弁山の方へ数百メートル農道わきの農業用水だめであった。一目見てぬけがらを多数さがしだし交じり思い 水たまりをネットであさってみたら「7頭の羽化直前と思われるヤゴを採集した。ナイロン袋に入れて持ち帰り、以下飼育の記ろくである。けっさよく「餌のうち」にこぼれ羽化した。標本を確認して下さった成見和徳先生には、深く感謝します。

◎羽化までの飼育記録

*A. nigrofasciatus* Oguma の 羽化直前終令ヤゴ 17頭

・成見孝信 4頭

(4頭) — 2頭死  
 — 1頭羽化して逃亡 3V1965  
 — 1頭羽化 4V1965

・若松茂正 3頭

(3頭) — 2頭小さい池に放して  
 — いたが うっかりして、  
 6日に見たときは、1頭  
 しかいなかった  
 — 1♀羽化 6V1965

「鹿児島市の蝶類」を1966年初夏までには 何らかの形式で 若松茂正がまとめるつもりである。各地でまとめられているにもかかわらず、一番重要な鹿児島市の記ろくがまとめられていません。鹿児島市の記ろくをお持ちの方で未発表のものがありましたら 下記の住所まで お手数をかけますが お寄せ下さい。

御協力を切にお願いします。 [鹿児島市上荒田町 1739 若松茂正]

# 蝶の飼育 Corner No. 1

鹿児島高等学校生物同好会

## ○はじめに

この欄は毎号登場する蝶の飼育などの生活史はある程なまで述べていると云うことは、序でものべているが案外よく考えると一般権の飼育よりも現在の学会などにて、問題になっている飼育会の先端を行っている物だけが、史とでにぎわされている。

この欄では、会員がはじめて体験した飼育が数多いために飼育用具等の専門的用語が使用されなく幼稚な飼育に見えるかも知れないが、あつとあつと飼育する人々にもなるべくわかり易く記して飼育のたのしさ、意義を理解してもらい、だんだん程々をあげて立派な飼育コーナーにしていきたい。

No.1として、キタテハの飼育記録を下記する



## キタテハの飼育記録

飼育者 岩松茂正

- 母蝶 栗野町ニ液産 19 III 1965 Coll POSS 岩松茂正 1♀  
鹿市 武岡産 25 III 1965 Coll POSS 全

※採卵を試みるまでは、両♀は三角紙の中に生かしておいた。

- 採卵場所・鹿児島市と荒田町 自宅の庭 日当りの良い所
- 年月日・1965年3月26日～30日
- 全植物・カナムグラ若葉 (クワ科)
- 全方法・30cm 平方のナイロン袋中に、カナムグラの若葉を入れ、その中に2♀♀をはなす。その際袋は、ふくらましてある。

## ○全個数

・1965年3月26日 102コ  
27日 47コ  
28日 42コ

・1965年3月 29日 天気悪く採卵  
試みず  
・ 30日 54コ  
▲ 計 245コ

○ 孵化		1965年 4月 13 ~ 15日間
○ 脱皮	2令	1965年 4月 18 ~ 20日
○ 脱皮	3令	1965年 4月 27 ~ 29日
○ 脱皮	4令	1965年 5月 3日 ~ 5日
○ 脱皮	終令	1965年 5月 7日 ~ 9日
○ 脱皮	蛹化	1965年 5月 12日 ~ 15日
○ 羽化		1965年 5月 23日 ~ 27日

}	卵期	16日 ~ 18日
	幼虫期	29日 ~ 30日
	蛹期	11日 ~ 12日

◎ 飼育所要日数 56日 ~ 60日

○ おわりに

上記は人に分けてやったり、死亡したものを除いて約170頭を  
 主体として記ろくした。非常に数が多かったために記ろくをとる  
 事がきわめて困難であった。この記ろくがいくらかでも参考にな  
 れば幸いである。

## ◁ 生物同好会 会員募集 ▷

「序」あるいは「同好会活動にあたって」でものべられてあ  
 るように、いかなる立派な研究を行なうにしてもそれに  
 伴う立派な人材が おおく必要であります。少数の蝶  
 の記録をとるだけなら一人や二人でやれるでしょう。  
 しかしそんなおぼけなものではなく、その蝶を飼育す  
 るなら、するなりにあらゆる数多くの問題が考えられる  
 でしょう。そんな細かいことを研究するのは、とても、  
 少数の人材では 研究不可能であるヒ云えましょう。

立派な人材が多く集まり分担研究しそれを一つの研究として  
まとめていく、これこそ高校の生物同好会のふさわしい姿では  
ないだろうか。又これぐらいは、やらないと同好会としての意  
味がないのでは ないだろうか。我々は、今その多くのよい人  
材を必要としている。そして更に研究を積み重ねて 立派な、  
同好会をさす"つきあげ" 近き将来にはクラブにまで発展させたい  
ものです。

生物に関するどの分野でも良いから研究してみようと思う  
人は、鹿兒島高等学校生物同好会へ入会してください。

生物室に輝く 多くの立派な授賞物の数々 十余年に わた  
る輝かしい伝統、立派な先輩、それに続く後輩。しかし今は少数  
で活動しているにすぎない。

今こそ大いなる 研究心に燃ゆる若者たちよ 入会  
されよ。それが 学校のためであり 延いては、  
文化向上のためでもあります。

鹿兒島高等学校の生物同好会を もりあげ育て  
ようではないか !!



入会希望者は

1のC 若松茂正 あるいは

1のG 徳永誠治まで

御連絡下さい。



## ◎ 生物同好会活動にあたって

四月中旬の放課後では なかったかと記憶していますが  
若松茂正・徳永誠治両君から中学時代に続いて蝶の研究を  
継続したとの申し出があり、今後の研究課題について相談  
した結果 蝶の生理 生態 形態等の中広い視野から体得  
するためには 多くの同好者を必要とするわけだが、その  
同好者の数少ない事を痛感し 会員多数の募集を望む次第  
である。

私自身 蝶に関しては 全くの素人であり、が 蝶への  
の趣味と学究的な関心は 必ずしも採集家であり 蒐集家  
であるべき約束はなく 豊かな知性と誠意をもって自然を  
視察し 自然に親しむことこそ よりよき人生の営みであ  
り 国の文化を高めて行こうとする所以ではなからうかと  
思います。

会員募集が おくれ 研究材料を逸してしまった感もし  
ますが 早い時期に 同好者が あつまり、研究活動を軌  
道に のせたいものです。

昭和 40年 6月

生物同好会顧問 宮原国男



## 編 集 後 記

皆さん ごらんになっていかがでしょうか 注意して載せたいと念じながら  
も 内心非常にむやみやびしているというよりは、やはりどこかに手おちがある  
のではないかとの心配からであります。しかし我々が できる範囲におい  
ては、精一杯やりました。更に会誌の発行がおくれたことを深くお詫言します。  
始めの訂正では五月のゴールデンウィークを利用して発送まで完了の予定でした  
が 五月ともなると 野山はすっかり新緑でおおわれて 家にじっとしておれ  
ずに340円出して栗野岳へ出たり 武岡、城山を回ったりして、虫屋の本能を  
発揮していると、こんどは採集品の整理をしたり 又二人共変な雑務が多く  
なかなか 適当な時間も見つけないうちに現在に至りました。今年は各地で異  
状天候で その影響が日益しに聞かれるようです。セミの初鳴きが遅れたり春  
特有のツマキチョウも私の知るかぎりでは採集した方は いないようでまっ  
たく困った事である。最初に採集道具 一般種採集記録 短報それに飼育記録の  
順で編集しました 高校生ですから なるべく学名を使用しようと決め、又少  
しでもなれて 覚えてもうおうと一種一種記しています。会誌の紙の質はあま  
りよくないが 同好会ですので 少ない経費でこの紙質を使うことにした。  
来号は七月上旬に発行を予定しています。珍種がふえる月ですので、必死で、  
ネットを振りまわしていると、つい発行予定を忘れてしまいそうな気がして  
なりません。恐ろしくもう沃山集まっていますので内容の充実した、かな  
りの会誌になるでしょう 宮原先生の「魚の一言」も 初心者に わかりやす  
く、まとめられて興味深く読んで いただけるでしょう。とうとう梅雨に入り  
ました。じめじめしていやなものです。お体には皆さん気をつけて頑張っ  
て下さい。次号に珍種の記録が発表されるのを念じつつ終ります。

御意見や御希望は 鹿児島市 薬師町 383番地 鹿児島高等学校  
生物室内 鹿児島高等学校生物同好会編集部へ  
どしどしおよせください 意義ある御意見や御希望  
をお待ちしています。

(若 松 ・ 徳 永)

## 目 次

序	若松茂正・徳永誠治 (1)
採集器具および標本作製器具	鹿高校生物同好会 (2~3)
春のチヨウの記録 三月~四月	全 上 (4~)
蝶類種類別採集および目録頭数目録「春のチヨウの記より」	(8~9)
<i>Erymnis montanus</i> BREHERミヤマセセリの新産地	若松茂正 (9)
<i>Celastrina puropa</i> HORSFIELD ヤクシマセリシジミの春の記録	若松茂正 (10)
徳永誠治君の標本を見て	若松茂正 (10)
<i>Papilio auriventris</i> JACON オナガアゲハを昔野所で採集	徳永誠治 (10)
<i>Leptolina unicolor</i> BREHER & GREY ヤシキモジセセリの大口での記録	徳永誠治 (10)
<i>Ipsepium drossi</i> CAR FELDER ミカドアゲハの春と夏の記録	徳永誠治 (10)
<i>Sparganodes delictans</i> MORGAN HARBUR スオボトカリシロクエ城山で採集	徳永誠治 (10)
<i>Amisiphus-clatus</i> OGIWA の新産地	若松茂正 (11)
「鹿児島市の蝶類」発行のおねがい	若松茂正 (11)
蝶の飼育 Corner No. 1	鹿高校生物同好会 (12~13)
生物同好会々員募集	全 上 (13~14)
生物同好会活動にあたって	宮原国男 (15)
編集後記	若松・徳永 (16)

BIOLOGY DATA 1965年 6月 第1号

鹿児島高等学校生物同好会発行誌

発行日	昭和40年 6月
編集者	若松茂正・徳永誠治
本 部	鹿児島市榮師町 383

鹿児島高等学校生物室